

福岡県西方沖地震
義援金を募ります
 詳しくは2面をご覧ください

ふ・く・お・か
市政だより

今月のおもな内容

- 福岡県西方沖地震
 関連記事 — 1~3・12面
- 市成果指標
 最新数値をお知らせします — 4面
- 家庭ごみ処理10月から有料に — 5面

人口/1,393,648人
 男/669,583人 女/724,065人
 世帯数/643,687世帯 (平成17年3月1日現在推計)

3月20日 福岡県西方沖地震

東・中央区震度6弱を観測 市内に甚大な被害



地震で損傷した屋根をビニールシートで覆った玄界島の家屋

市、復旧に全力で取り組む

三月二十日午前十時五十三分頃、福岡市の北西約二十キロの玄界灘を震源とする大地震が発生、九州北部を中心に大きな被害をもたらしました。地震の規模はマグニチュード7、震度は福岡市東区・中央区、前原市などで6弱、そのほか九州から関東地方の一部にかけて1~5強が観測されました。福岡管区気象台が観測を開始した一八九〇年以降、県内で観測された震度は4が最大でしたが、今回はそれを上回り、観測史上最大のものとなりました。

市は、同日午前十一時二十分に、災害対策本部を設置し、情報収集や自衛隊、海上保安庁への協力を得て玄界島住民の救出などに取組みました。

祝日で休業だった職員は、災害時のマニュアルに則し各職場へ自主登庁。鉄道の運休など交通網が遮断される中、地震発生から四時間半後には、全職員の約三割にあたる三百七十二人が到着し、被害への対応に奔走しました。

大地震の発生から数週間が経ち、市内の交通やライフラインは正常に戻っていますが、今なお被害に苦しむ多くの被災者がいます。現在、市は、見舞金や市税の減免、市営住宅への一時入居、各種相談窓口の開設などの被災者支援策の実施や、港湾・道路・下水道などのインフラ復旧に向けて、全力で取り組んでいます。

震源地に近い福岡市では、四月五日時点で死者一人、負傷者六百三十五人の人的被害が発生。住家被害は二千三百三十八棟に上り、中でも西区玄界島では、全二百二十五棟の家屋の約八割が全半壊するなど被害は甚大で、すべての島民が市九電記念体育館などへ避難しました。

（2・3・12面に関連記事）

市長からのメッセージ

三月二十日の福岡県西方沖地震で被害を受けた市民の皆さんに、心からお見舞いを申し上げます。

一瞬にして市民生活に深いつめ跡を残したこの震災も、市民や企業の皆さんの努力のおかげで、交通やライフラインなどはいち早く通常の状態に戻ることができました。

しかし、一方でまだに多くの被災者の皆さんがご自宅に戻ることができず、避難所で不安な日々を送っていらっしゃいます。市民の皆さんのご協力をお願いいたします。

玄界島の皆さんのための仮設住宅建設は今月末の完成を目指して着々と進んでおり、さらに被災者の皆さんの生活再建に向けた施策実施に全力を挙げて取り組んでいます。

引き続き、安全で安心して避難所を見舞う山崎市長



福岡市長 山崎 浩一

